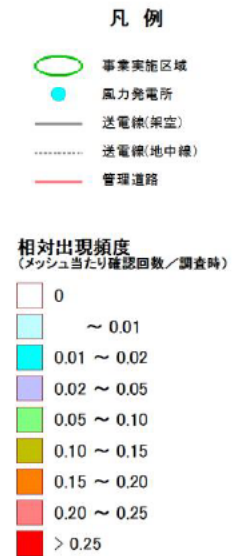


重要種保護のため非公表

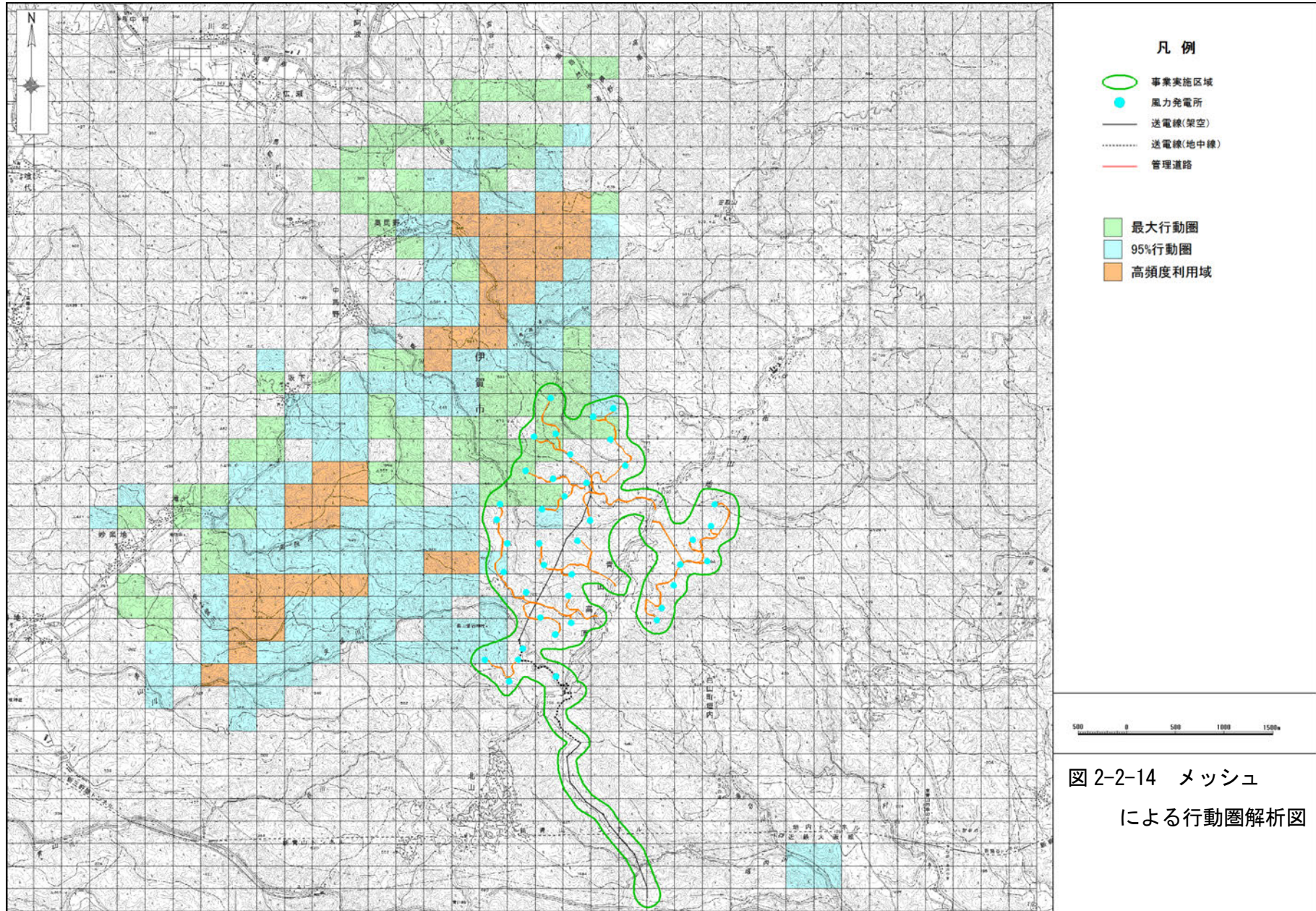


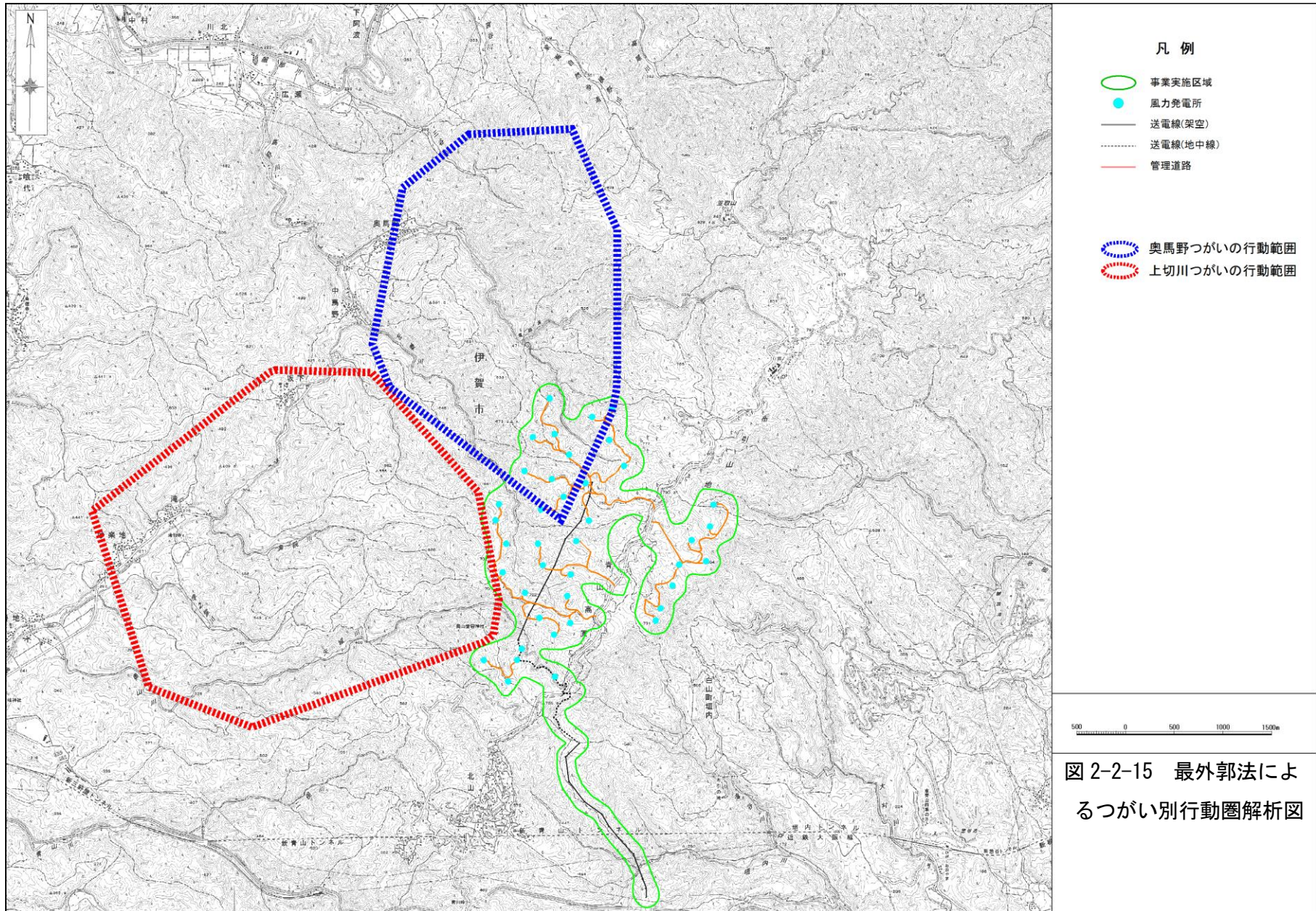
【出現回数のカウント方法】
出現回数は、個々の止まりと止まりの間の飛行(飛行のみ
の場合を省く)を単位に、そのメッシュに止まりや通過がある
たびに1回としてカウントした。連続した飛行の場合は、複数回
出入りがあっても、1カウントとした。
例)メッシュに飛来し、木に止まった後飛び去った=3カウント
上空を巡回し何度も出入りを繰り返した=1カウント

【相対頻度の計算】
各メッシュ内への対象種の出現回数をそのメッシュの
累積観察時間で除した。=調査時平均の出現回数に相当

500 0 500 1000 1500m

図 2-2-13 相対出現頻度
メッシュ図





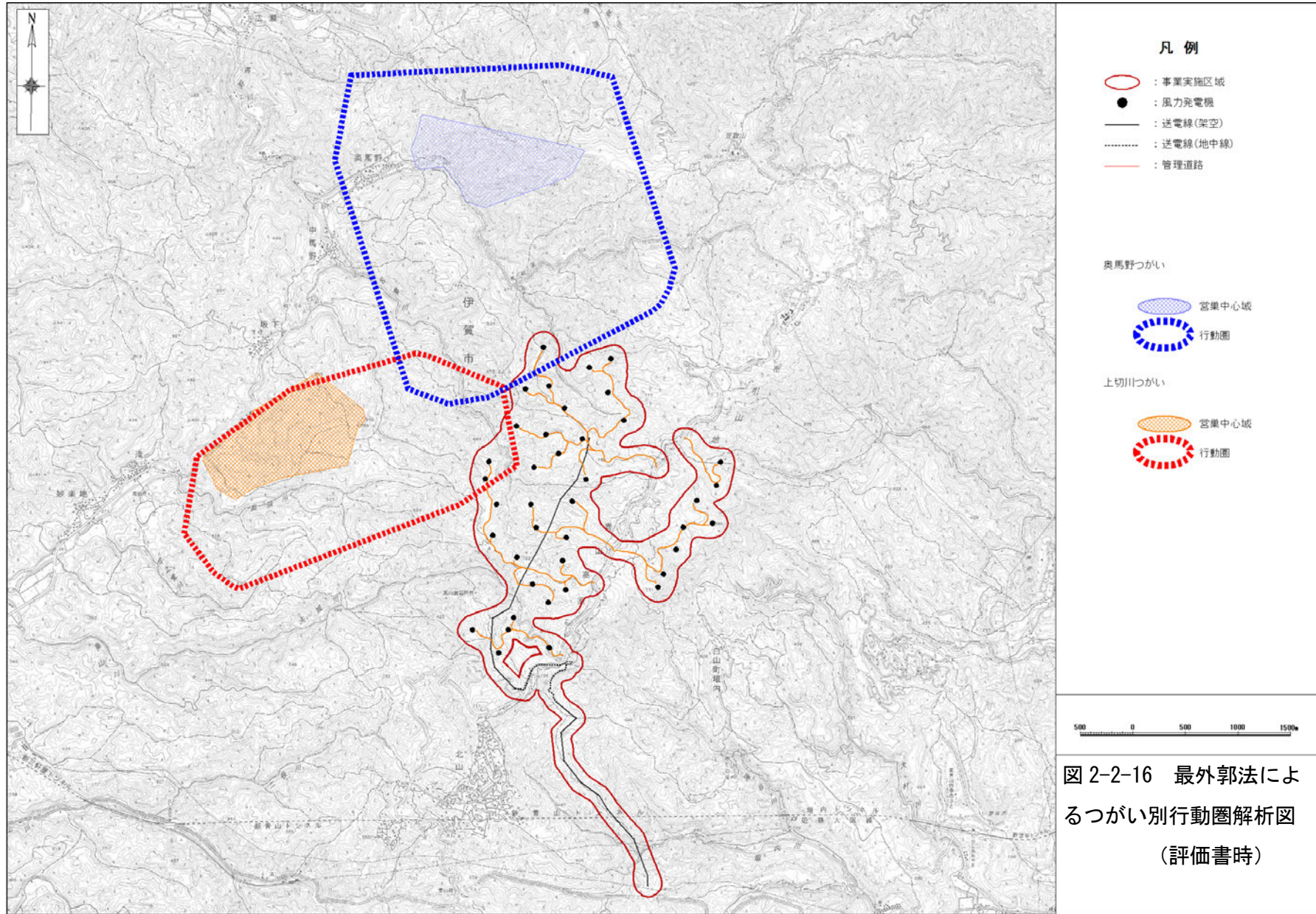
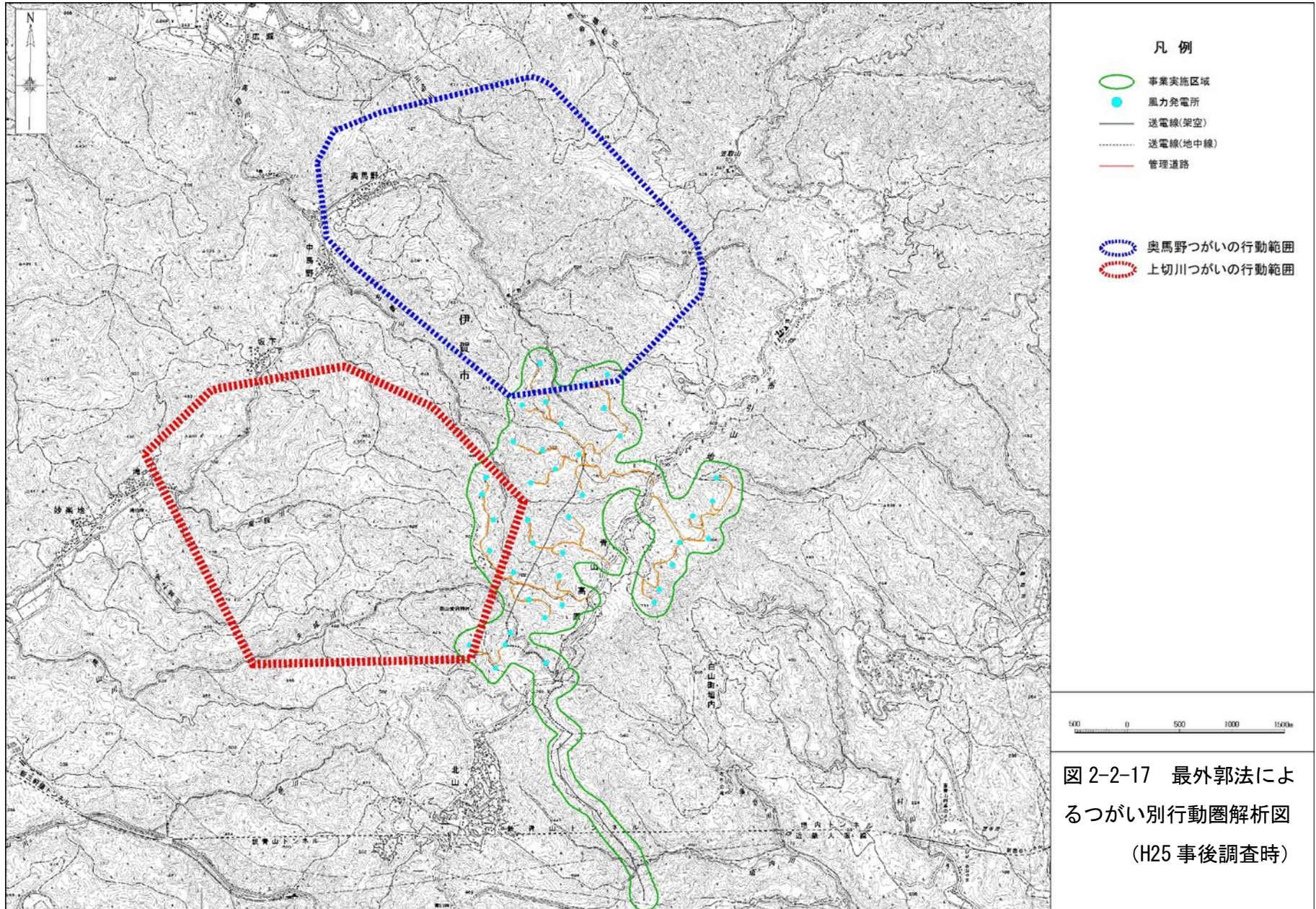


図 2-2-16 最外郭法によるつがい別行動圏解析図
(評価書時)



c) 有識者からの意見聴取

当該事業における環境影響評価調査については、調査の開始から予測評価まで有識者の意見を聴取しながら進めてきました。本調査についても引き続き調査手法や調査結果について下記有識者への意見聴取を実施しました。

意見の概要は資料編に示したとおりです。

意見聴取方法	有識者所属	有識者名	専 門
ヒアリング	立教大学 理学部教授	上田 恵介	鳥 類

3 陸生動物（ヨタカ）

3-1 調査概要

評価書の現況調査において生息を確認したヨタカについて、その生息状況を継続的に把握することを目的に実施しました。

3-2 調査方法

調査は主に任意踏査とし、夜間に調査範囲を踏査して主に鳴き声による確認に努めました。

また、夜間調査時に鳴き声を確認された場所については、翌日の昼間に踏査を実施し、出現環境や生息状況（営巣やねぐらの有無を含む）の確認に努めました。

3-3 調査時期

ヨタカは夏鳥であり、事業実施区域周辺に生息するのは、主に4月から8月にかけてと考えられることから、5月から7月にかけて3回調査（1回あたり2晩）を実施しました。

第1回：平成26年5月6日～8日（2晩）

第2回：平成26年6月15日～17日（2晩）

第3回：平成26年7月20日～22日（2晩）

3-4 調査区域

本事業の評価書の現況調査で確認された地点及び昨年度の調査で生息を確認した地点等を中心に実施しました。

調査範囲及び踏査ルートは図2-3-1に示したとおりです。

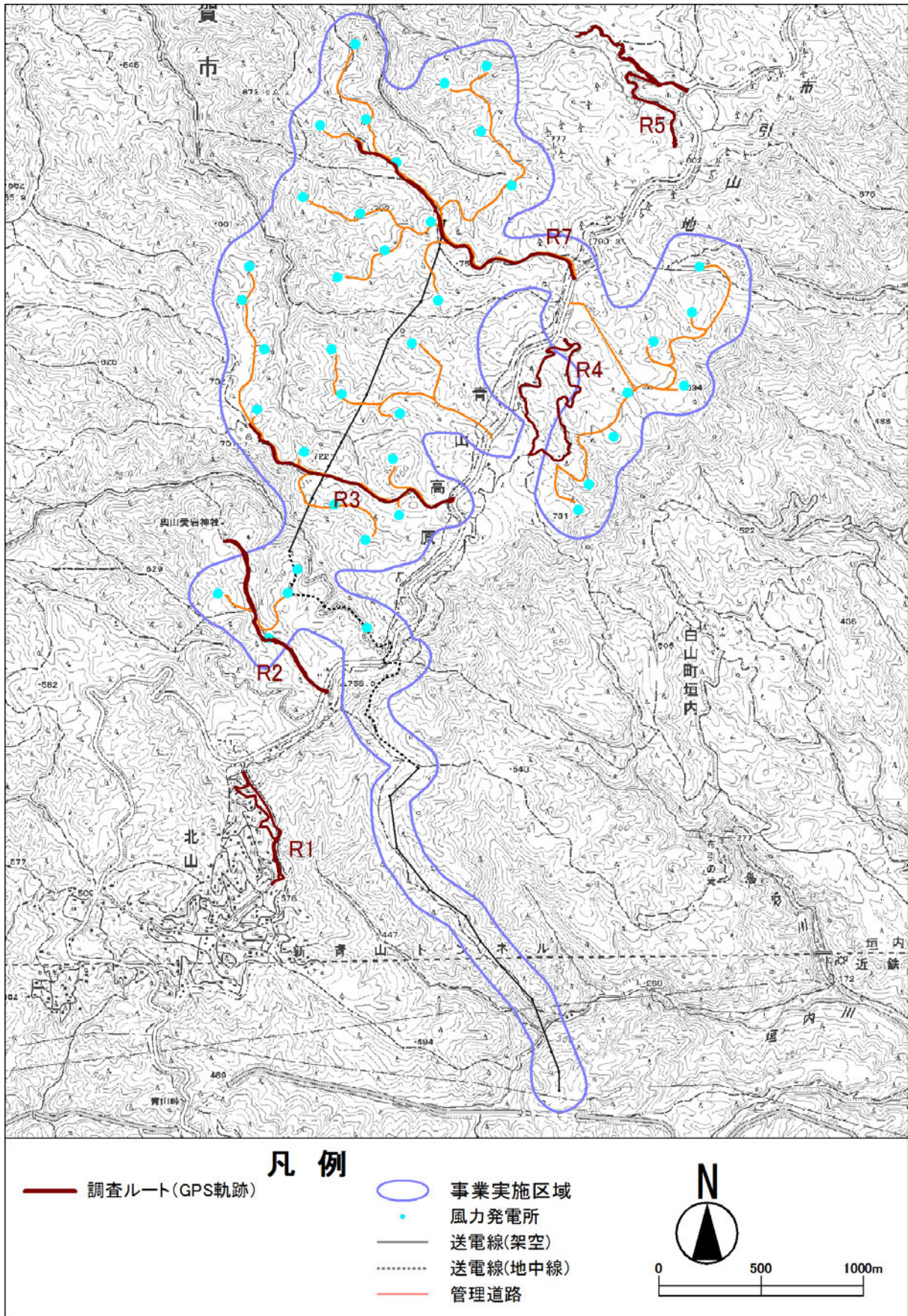


図 2-3-1 ヨタカ調査の踏査ルート等

3-5 調査結果

5月から7月に実施した3回の調査の各月でヨタカの鳴き声が確認されました。

確認位置は図 2-3-2 に示したとおりです。

5月調査では、高原道路に近いところの1箇所を確認されたのみでした。

6月調査では5箇所を確認され、そのうち4箇所がR3付近での確認でした。R3付近の確認は、同一個体が鳴きながら移動していた可能性もあります。また、R3付近の確認箇所では、調査時点で造成工事が実施されているエリアが含まれています。

7月調査では2箇所で鳴き声が確認されました。R3付近の確認地点では、6月確認時よりもやや山麓側の地点で確認されました。

3-6 考察

ヨタカは、5月から7月の各月で確認されました。確認箇所は、月が進むにしたがって、高原道路のある稜線付近から遠ざかっていく傾向がみられました。これは、夏鳥としての渡来のタイミングとその後の繁殖活動の進行に伴う、ヨタカ自身の活動性や行動範囲の変化を反映しているのではないかと考えられます。

6月が最も高い頻度で確認されましたが、その時点で造成工事が実施されているエリアでも確認されています。造成工事区域では、森林環境が減少しているものの、ヨタカが積極的に回避している状況はみられませんでした。

このことから、同種に対する事業の実施による影響については評価書記載内容と変わらず、影響は小さいものと考えられます。

なお、現地調査で確認された鳴き声（キョキョキョ）は、その大きさの変化や聞こえてくる方向の変化などから鳴きながら飛んでいると考えられますが、ヨタカが鳴く状況や鳴き声の機能については不明な点が多く、この鳴き声になわばり宣言の機能があるかどうか不明です。

したがって、なわばり内の特定の場所（ソングポスト）でよく鳴くスズメ目の鳥の「さえずり」とは違い、鳴き声の位置からなわばりや営巣場所を推定することは困難であると考えられます。